

平成27年11月19日

旧阿久根高校跡地活用検討に 関する調査特別委員会

阿久根市議会

- 1 会 議 名 旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査特別委員会
- 2 日 時 平成27年11月19日(木) 10時03分開会
11時35分閉会
- 3 場 所 第2委員会室
- 4 出席委員 山田勝委員長、濱崎國治副委員長、白石純一委員、
渡辺久治委員、西田数市委員、仮屋園一徳委員、
竹原恵美委員、牟田学委員
- 5 事務局職員 議事係長 東 岳也
- 6 参考人 槇之浦 良文 君
- 7 会議に付した事件
・旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査
- 8 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

山田勝委員長

ただいまから旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査特別委員会を開会いたします。本日は、先の委員会で決定しましたとおり、旧阿久根高校跡地活用について、有限会社八光商事代表取締役、槇之浦良文氏から意見をお伺いします。まず参考人の意見を聞いてから、質疑を行いますのでよろしくお願いいたします。それでは、参考人の出席をお願いします。

(槇之浦参考人入室)

槇之浦参考人

どうも、槇之浦です、よろしくお願いいたします。

山田勝委員長

本日はお忙しいところ、本委員会の審査のために、御出席いただき、まことにありがとうございます。槇之浦社長にはかねて、阿久根市の活性化のために積極的な御協力をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。ここで、本委員会の審査状況について御報告いたします。本年6月の第2回定例会において、旧阿久根高校の跡地活用について調査をすることを目的としてこの特別委員会が設置され、その後旧阿久根高校の現地調査を含め、これまでお二人の参考人から御意見をお聞きしながら、継続して審査を行っております。今回、槇之浦様から旧阿久根高校の跡地活用に関する御意見等を伺い、今後の審査の参考としたいため、本日お越しいただいたものでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、旧阿久根高校跡地の活用策について、御意見をお伺いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

槇之浦参考人

参考になるかどうかわかりませんが、私どもの阿久根は海からの産物と、山の産物とということになってきていると思います。特に海からの産物というのが確実に収穫を得ているのかというと、その方面についても一つの具体的に考えれば、私は海のものはある意味で、高級な魚を、みんなが引きとってくれるような高級な魚を育成するのが、丘の上でまず第一だろうと。それと、二つ目はこの農産物というものについて、阿久根農高の耐震がもしあるとすれば、一つの考え方として、一昨年私は国の政策研究所ですか、そこの小浦理事と、うちの三男坊と、今いろいろメールの取り交わしをやっているんですけど、最後にですね、MSK、国の戦略機構の長官が入ってこられました、私に一言、言われたことは、いろんなことを考えるよりはどこにでも廃校があるんだと、どの地区にでも廃校があるんだから、その廃校を利用してもしやしもつくってみたらどうかというのが長官の考え方でした。ということは、設備をうまく利用するならば、単価は安いかもしれないけれども、それ以上のものが生まれるのではないのかという考え方が多くを占めているんだなということが言えるんじゃないかと思います。それで、自分なりにもこうしていろいろ事業をやっておりますけれども、老人の問題、福祉の問題、いろいろやっています。だけれども、一番大事なものは障がい者がどうして生きていくかということのもあわせもって、自分たちのグループの中にもそういう障がい者的なものを組み入れた作業所、そういうものがないもんかということは、今まで過去、探してきましたし、研究もしてきたつもりです。その中で、突然、国のトップの政策研究所の長官がもやしをつくったらどうかと言われる理由はどこにあるのかということをよく考えてみますと、昔は水耕栽培がありましたよね。私の父も阿久根市の収入役が最

後でしたけれども、確か市来農芸高校の、私が小学校4年から中学校に上がるころ、ネットメロンをたしか水耕栽培で、四苦八苦やって研究している時でございまして、子供ながらずっと研究の成果を見ていましたけれども、なかなか水耕栽培というのは水位が下がっていくにつれて、養分は吸うんですけれども、当時は酸素をその真ん中に、今はロックウールというんですか、何ですか、その上に種を蒔きますよね。昔は砂利の上に種を蒔いて、そうしてやったわけですから、ちょうど真ん中の辺、水分が下がっていく分について、栄養分を補給していく。その部分に酸素をどうゆうふうにして送り込むかということが、非常に難しいんだということで僕の認識の中にあるんですけれども、今は簡単にそういうことができる世の中になってきた。そうなってくると、阿久根農高も、というより阿久根高校そのものの建物が、もし耐震があるとすれば、あれを真っ暗にして、真っ暗にしてですね、棚をつくってやるとすれば幾らの生産ができるかともやしに限らず、いろんな葉っぱものとかいろいろできると思うんですけれども、継続的に雇用を生み、継続的に作業がなされ収穫を得るということを考えれば、私は、阿久根高校のところにプールがありますから、プールがあるということは、水をあげる能力があるということですよね。だから条件は私は揃っているのではないのかなと、そういうふうに思います。だから、何かをつくるために、新しいものをつくるために、あの学校を取り壊して、大きな金をかけていくのか、それとも今のものを利用して、そこまで財源を使わずに、継続的な雇用を生み出し、また、継続的に生産できるものが、何かあるかということを考えていったほうが、私は得策ではないのかなというふうに思って、自分なりに研究をしておりますけれども、今はLEDを使い、いろんな形の中でビームというんですかね、光線的なものも使いながら実際やっているところがあります。ところが我々がそういうのに興味を持っているからということで、いくらそういうところに連絡をしてもですね、なかなか見せてもらえない、実際のところが。一番近くであるのは、阿蘇にもたしかあったと思いますけど、僕は博多のをしょっちゅう見るんですが、あれは4、5階建てですよ。だからまあ野菜の工場生産といえればそれになるのではないのかなと思いますけれども、私はそういう方法がもし採れるとすれば、それが一番手っ取り早くて、三つの条件、雇用を生むということと、新しい生産物を阿久根市が何か持つということと、財源的なものを確保できる。それが担うのはそういう方法が一番いいのではないのかなと自分なりに私は考えます。そういう観点から、今私はいろんなところに行きますけれども、いろんなハウス経営ののを見てもみましたが、ハウス経営が悪いとは言いませんけれども、せっかくそういう建物があるわけですから、それを壊してまで何をすることより、活かすほうが意味があるのではないのかというふうに捉えております。自分たちもチャンスがあればそういう障がい者の人たちも使い、やってみたいというのが、私が若いころ勉強させていただいた、井上吉夫参議院議員、あるいは(安西御先生)の意思を継ぐ方法でもあるというふうに私なりに考えて、自分たちも職員に対してもそういう方向性をもっていつも世の中を眺めると、世の中を見ろというふうに努めて教えているところです。私の意見はそんなところです。

山田勝委員長

ありがとうございます。それではただいま説明いただきました内容について、それぞれ委員の皆さんから質問してください。

濱崎國治委員

大変貴重な、これまで考えたことのない、私にとってはこれまで考えることがない新しい発想だと思うんですが、おっしゃるとおり、現施設を解体せずにそのまま使えらしたら、非常に財政的にも投資が少なくて済むというふうに思います。阿久根高校は耐震的にはクリアしているということを伺いまして、現施設が今の御意見では現施設を使ったのが可能じゃないかなと。そこで、これについてはLEDを使ったということで、それから冷暖房、エアコン的なものも必要になってきますか。

槁之浦参考人

そこまでは必要ないんじゃないんですか。

濱崎國治委員

というのは、常温で、阿久根の気候でLEDを使ったそういう新しい農産物の栽培が可能という御意見ということで。

槁之浦参考人

私はそういうふうに捉えてますけれども。どうせ密閉するわけですから、ある意味で、暗くするという事は今の窓ガラスをどうしても暗くせざるを得ない。それであれば適正な温度を保てるということは容易なことだと私は思いますけれども。

濱崎國治委員

ということは、と言いますのは、エアコンを使ったとなればコストの関係が高くなってくるといことで、ただ常温を、外気を取り入れるとすればそうないのかなというのでも考えました。それから、もう一つ、LEDの話がされましたが、かつて、数年前ですかね、LEDの会社が出水にもありますし、県内であるんですけど、そこから個人的に土地、農地を持ってないか、そういうことでLEDによる野菜栽培をテスト的という話があったんですが、たまたま私は持ってなかったものですから、そういうのにならんかったんですけども、そこも試験的といことで、それが実用化するとかそういうのは別だったんですが、今、槁之浦さんの話を聞いていけば、特に新しい生産物、農産物ということでありました。一例としてもやしというのを挙げられましたけれども、これはほかの農産物でもLED栽培というのは全国的にあるようですけれども、それはもやしにこだわることなくほかのもでもいいというお考えですか。

槁之浦参考人

そういうことですね。

仮屋園一徳委員

今、栽培方法についてはですね、宮崎とか熊本とかが先進地で報道の中ですけど、日本は100、200の肥料とか病害虫ですね、そういう管理をしているといことで、ただ、ヨーロッパは相当進んで、1000クラスだといことなんですよ、その項目が。だからそういったのからすると、その部分に相当経費はかかるのかなと思えますけど、私もまだそこまでどういう施設が必要なのか、どれくらい金がかかるのかわからないんですけど、そういうのと、障がい者の人たちを使いながらといか、そういうのとのバランスといえますかね、そういったものについてはどのように考えたらよろしいでしょうか。

槁之浦参考人

私は、自分の事業の一環として、一つは障がい者の問題というものは捉えているといことですから、障がい者を外してみても、一般の人たちが単純に教えてもらえればすぐできますよといことになるのではないのかなといふうにつえます。それと、問題は水温であって、水の温度が平均しているかどうか等々の問題があって、あとその室内の温度をどう調整するかといことは、なにも大きな室外機とか設けなくてもできるんじゃないかなと私は推測しておりますけど。

仮屋園一徳委員

場所的なもので、今、校舎利用なんですけれども、高校跡地というのは御存知のようにグラウンドとか相当敷地的には広いわけですよ。そういった敷地なんかもその部分で活用するというのは、狭いよりも広い方がいいわけですけど、ほかのものとも一緒に組み合わせをしながら進めていくという考え方もできますかね。

槁之浦参考人

そうですね、何を生産するかによっては、毎日出荷が出るわけですから、それに対して即応しなきゃいけないといことが出てきますから、どこまでどういうふう土地を

利用するかというのは、何をつくるかということによって変わってくるんじゃないかなというふうに思います。

牟田学委員

この委員会です、最初の参考人で、聖園園の園長の話も聞いたんです。そうした中で、参考人の槁之浦さんは老人福祉関係を今の高校の跡地というのは考えてはいらっしやらないんですか。

槁之浦参考人

いや、私は今、うちのグループとしては神戸から大阪の尼崎等々のほうに第6期の老人ホームの採用を見ると。9月までぐらいですかね、それを申請を上げなければならない。しかも土地は自分のものにして申請を上げなければならないというのが条件になりますので、そっちの方向で、今我々は動いています。ただしかし、そうなってきた場合に一番肝心なのは、看護婦さんたちの不足。これはもうどうしようもない、今日本が抱えている一つの一番問題だと思ってるんですよ。だからといってそれをどこでどういうふうに採用していくかということになってくると、日本の中で、今この出水地区でもそうですけれども、看護婦さんたちになる応募者というか、なりたいという人が中央高校も含め、野田女子高もそうですが定員割れをしていますよね、現在が。現在定員割れをしているものをどうして増やすかということになってくると、外国のほうからそういう資格を持っている人を採用する以外にはないのかなと、しばらくの間はですよ。政策的に、日本の政府は計画的な段階をもって、それを補っていくことができるところに行くまでは、しばらくは恐らく海外から求めざるを得ないのかなと。そうした場合に、先ほども申しあげましたけれども、海外のほうで資格は持ってる。だけれども、日本語の難しいところがわからない。だから試験に通らない。そこをきちんと教えてくれる場所というのが、学校というものはどうしても必要になってくるねと。だけど、立地的に考えてみた場合に、やはり博多から上の方に行くのではないのかなと、そういう学校を国がもし、採用するということを決めて、そういう段階を積んでくるとするならば、そっちの方向性が高いんじゃないのかなというふうに私は思われます。

牟田学委員

阿久根高校跡地にですね、そういう看護師の養成所というか学校ですね、そういうのをつくったらどうかという話もあります。そして阿久根市が今から高齢化になっているんですが、今の現状として阿久根市はその施設が老人福祉の、今で足りてるのかなと、どういうお考えをお持ちなんでしょうか。阿久根市に関しての今の現状。

槁之浦参考人

私は、これ以上のものを阿久根市が持つとするならば、それに対する財源というのが阿久根市はというふうに補充できるのかということのほうの問題になるのではなからうかということになりますと、県のほう、知事さんとどういような補助率の問題を高めていくかという相談ができるかどうか。そこらの問題だというふうに捉えていますけれども。

渡辺久治委員

実は私の義理の親父がですね、以前工場をしております、その中で工場を利用した水耕栽培というのを一時期やっております、実際ですね。その当時は、工場の方針としては自動化・省略化の機械を使って、水耕栽培の容器を動かして、なるべく人を使わないでしようということの研究していたんですけれども、しばらく5年くらいはやったんですかね。それに伴って私もスーパーとかに売り込みに行ったこともあります。当時としてはものすごく経費がかかって、これは金食い虫だというのが私の印象だったんです、その頃は。でも、あれから約20年弱過ぎまして、いろんなこのいろんなところでそういうのを見てるし、技術も進んできてるなど、確かにそう思っています。先ほど言われたように、阿久根高校は建物自体はいいですし、4階建てであつてもちゃんとすれ

ば、うまい具合にもっていけば、いいかなというふうに、初めて、聞いてそう思いました。ところで、槁之浦参考人はそれをいろんなところの情報を踏まえた上で、これは採算が合うなという感触をお持ちですか。

槁之浦参考人

採算合うでしょうね。私も最初はですね、国の政策金融公庫、今ある事業を組み立てておりますんで、国の政策金融公庫の資金を今度は借りようかということで、阿久根に1つのそれによって名産をつくろうということを1つはやっております。そのときに政策金融公庫の上に戦略機構というのがありますから、経済戦略機構というのがございます。MSKというんですかね、通称。そこの小浦理事とうちの三男坊が東北大学の学院を終了して、今帰って来てるんですが、メールで一生懸命やり取りをやってます。その話の中でですね、長官の高田正一郎先生が部屋の中にポンと入ってこられて、そんな大きなことをする事業を組み立てるよりは、君、もやしのほうがいいよ、确实だよということをおっしゃったんですね。私もそのときは何でもやしなんだと、いうことを考えながら帰ってきたんですけども、こうして今考えてみると、昔でいえば大きなハウスをつくって、すごい金をかけてというのが始まりですよ。だけど、現在有るものをどう有効利用するかということについては、やはり、毎日回転が出来るものもいい、毎日お金が少しでも入ってくるものもいい。毎日働けるところがあったほうがいい。これが一つの要じゃないのかなと私は思います。

渡辺久治委員

槁之浦参考人が実際自分のところのグループの事業として阿久根高校でやってみたいというお考えはあるわけですね、そしたら。

槁之浦参考人

やってみたいですね。

渡辺久治委員

ありがとうございます。

濱崎國治委員

先ほど、槁之浦さんが大切なのは障がい者を取り入れたということだということをおっしゃいまして、まさしく健常者の方が教えれば単純労務も多いでしょうからですね、障がい者を取り入れたとなかなか経営的な面からも、あるいは障がい者の社会進出という視点からもですね、非常にいいなあという思いがしています。といいますのは、障がい者の割合を高めるというそういうことでよろしいんですか。指導者は健常者で、実際作業をするのはある程度、

槁之浦参考人

それは、障がいの度によって変わるんじゃないんでしょうかね。私は障がい者を自民党の秘書時代からよく慰問に行きましたけれども、帰ってくるときは涙が出てくるかなと、そういう養護学校とかいろんなところを回ってきましたよ。だけれども彼らは希望を持ってるんですね。生きているということと、何かをやりたいということの希望は持ってるんですよ。だからその希望を与えてやる一つの場でもあるなということが一つ。もう一つは社会のこの福祉事業の中でどうしてもそれは乗り越えていかなきゃいけない。健常者みんながそれに対して考えてやらなければならない問題だろうと思います。私も自分が病院を始めてから、大川の人だったかな、しょっちゅう来て、そういうのをつくってくださいよと、作業所をつくってくださいよということはずっとお願いに来られた一幕がありますから、それはやはり胸の中に今でもおさめているところです。何かチャンスがあればということは考えております。

濱崎國治委員

おっしゃるとおり、市内でも小規模の作業所というのが点在してるんですけども、ただ、課題はやはり、将来的に親御さんが、保護者の方が亡くなられたときに独り立ち

できるだろうかというのがですね、一番課題でないかと思います。そういう意味では日々、毎月決まった収入が得られて生活できるというのがですね、まさしく障がい者の社会進出のキーワードだなという思いがしてますが、そこでそういう作業所と併設した何か施設、いわゆる社会復帰のための訓練をしたりとかそういう施設は必要ないんでしょうか。

槁之浦参考人

それは必要があるとは思いますが、実質そこまでつなげていけるかという、予算的なものですね。それがいただけるかどうかというところだろうと思いますが、これも。

濱崎國治委員

先ほど、国の助成の話もされましたけれども、私も民間がするにしてもやっぱり国、県の助成なしではかなり経営的に厳しくなるのかなあという思いがして、それにはそれなりの助成がぜひ今後は、必要だなあという気がします。阿久根高校跡地は広さは先ほど出てますとおりかなり広いんですね。だから、今の校舎を使うだけじゃなくて、校庭にしても、あるいは体育館にしても、プールは上水道で前までは使っていたわけですが、なんかそういう併設をした作業所が中心になって、それに関係する業種といますか、施設というのがどうしても一体的にしたほうがいいのかなあという思いがしたもんですから、そういうお尋ねをするんですけれども。

槁之浦参考人

やはり、宿舎は必要でしょうね。先ほどもおっしゃいましたように、親御さんたちから見ると自分たちが亡くなった後、この子供たちがほんとに生活できるのかどうか。それを、安西愛子先生もそうだったし、うちの井上吉男もそうでしたし、その先が心配なんだよと。だから僕は養護学校を持ってきたんだよと、出水に。けど、この養護学校が卒業生を生んでいく、この卒業生が出ていく先、もし君が余裕があるならばそれをつくってくれと、というのが井上吉男先生の遺言と思って聞いております。

渡辺久治委員

現在の阿久根高校の校舎は、鉄筋4階建てが2棟か3棟かあるんですかね、あの規模でですね、3棟、すみません3階建てです。あの規模で実際操業したとして、フルに全部を使ったとして、どれくらいの雇用が必要になってくるかということ、もちろん概算といえども大まかなのでいいんですけども、どんなふうにお考えですかね。

槁之浦参考人

はっきりとは今言えません、まだ。

渡辺久治委員

でも100人規模にはなるでしょうね。

槁之浦参考人

どうでしょうかね、そこは。

白石純一委員

お伺いします。水が大事ということでおっしゃってましたけれども、すみません私も不勉強で申し訳ないんですけども、水っていうのはもやし栽培の場合にはかなり循環が必要ということになるんでしょうか。

槁之浦参考人

循環というか、昔は石の上に、深さはこれぐらいですかね、たしか。上に栄養剤をいれてやるということから始めて、その上に種がのつてると。今、ロックウールというんですか、薄いできてますよね、あれ、名称がちょっと、その上に種をのせていく。そこから芽が出てきますよね。そうすると水位が下がっていく、当然。その分の養分を足してやらなければならない。その養分を足してやるというだけではだめですから、その真ん中の部位に、まあ言えば、酸素をいくら供給できるかという要素が入ってきますか

ら。そこはやはり健常者の感覚でないと難しいのかなと思いますね。

白石純一委員

あとですね、社長がおっしゃってました農業とともに海のものであれば高級魚のブランド化ということをおっしゃっていたと思うんですけども、廃校を利用した魚の養殖というところもやってるところがあると聞いたんですけども、その辺についてはなにか知識、お考えはございませんでしょうか。

槁之浦参考人

それは今、研究の段階で、廃校というよりはあいてる土地がたくさんあります、阿久根は。耕作といいますか、長年全然つくってないと、そういう中で、養殖に適するのと、要するに生まれてから3か月ないし4か月の食い込みがあるなしというのは、温度が20度というのが適切というのが出てますから。広めたときに20度ということは22、3度の温度の質が出るかどうか。その問題だろうと思いますよ。

白石純一委員

ありがとうございます。

仮屋園一徳委員

私は阿久根高校跡地を考えたときにですね、校舎が3階建てがあります。今、県の施設で、敷地も含めてですね、なんですけど、県の考え方としては阿久根市が有効利用するならいつでもあげますよという形だと思うんですけど、ただ校舎を解体と考えたときにですね、相当の金が必要と、億、2億3億の金が必要ということで、再利用したとしてもあと何年もつのかなと、何十年もつのかなと、その辺と、それができなくなったときに建物を壊して新たなものを建設するとなると、採算ベースに乗るのかなというふう考えたものですから、その辺についてはどのように考えていけばいいでしょうか。

槁之浦参考人

それは、実績がそこに伴ってればですね、それなりの県の予算の枠の中で、恐らくお願いされれば建て替えの補助というものはある程度出ると思います。そこに1つは障がい者的なものも含んでれば、なおさら確率は高いんじゃないのかなと。阿久根市がわざわざ予算を削ってどうですよということではなくて、県の割合の中の確率を高くしていく、補助率をですね。その方が賢明ではないのかなと思いますけれども。

仮屋園一徳委員

再利用の場合にですよ、ほかのいろんな考え方もあるんですけど、あそこをホテルにしたりとか、合宿的なちょっとした宿泊所にするすると、相当金がかかるだろうなど。ただ、今言われるような水耕栽培であれば、ちょっとした棚をつくるとか、配管施設とかちょっとした部屋をつくるくらいで、経費的にはそんなにかけられないというのはわかりますよね。だからその辺で再利用した場合に、安くて出来るという面では大変興味を持つのかなと思います。ありがとうございます。

竹原恵美委員

お尋ねしたいんですけども、グループ会社ホテルをお持ちなんですけど、今まで委員会の中でホテル経営というのも入ってきました。阿久根には（聴取不能）旅館とか地域の産物を出すようなところは割と高価格になっていて、その下がすいていると。その辺で阿久根には、その辺の集客ができるものというアイデアも今までに聞いてきました。槁之浦さんのセンスでは阿久根での経営はどのようにごらんになりますか。

槁之浦参考人

私は、ホテルというより何と申しますかね、ホテル経営というのは、障がい者なんかの就業施設というものと考えてみました場合に、障がい者等々のは一杯にしてしまえばそれで採算がいくんですよ。ホテルは毎日変わりますよね、そして営業しなきゃいけない。いろんなものもしなきゃいけない。そして何か特産がないと、特別なものがないとそこに泊まっただけじゃない。そういう難しさは持っていると思うんですよ。だから阿

久根にある国民宿舎にしても何らかの特色を今後持たざるを得ないというふうに私は判断しています。

竹原恵美委員

今の状態、今そこの新しい特色を出すというのであれば、泊まるようにはなっていないというふうに、

槇之浦参考人

そう思いますね、それよりか昔、ロッテの2軍の話がなかったですか。ロッテの2軍を呼ぼうという話があったと思うんですよ。

山田勝委員長

ダイエーです。

槇之浦参考人

ダイエーですかね。だからよく僕の知ってる人がですね、娯楽業の業界でですね、ロッテ商品を全部扱ってるんですよ、九州を。彼の一言で、そのとき僕が頼めば来たかもしれないと今でも思っています。それはなんかというと、脇本の海岸が非常にメリットがあると。だから脇本のほうに宿舎があって、海岸を走ってきて、武道館なり体育館なりで練習を済ませて、帰っていくというパターンが一番大切だという考え方を持っていましたね。

濱崎國治委員

誰もなければ、私は阿久根高校跡地では先ほど参考人もおっしゃいましたけれども、今、不足している介護養成、介護士をなんとか阿久根で育成して、それによって阿久根の近郊の福祉施設の人員不足を補うとともに、なんらかの形で活性化できないかなということを考えています。それは、おっしゃったように地域にはそういう対象となる人材、生徒がないんですね。そうすれば必然的に外国に求めざるを得ない、そうすれば外国から呼び込んで、阿久根高校跡地にそういう日本語学校的なのをすることによって、あるいは介護養成所をすることによって、併設した福祉施設をつくって、それによる活性化ができないだろうか。もちろん、これについては聖園の方も若干それに触れられておりますけれども、そういうのはどうかなというのは、今、介護職員は待遇のいい都市部へ流れているというのもあるし、都市部では今後、100万人、200万人単位でどんどん高齢者、いわゆる施設入所者の対象者が増えてくるという状況の中で、阿久根市は今では高齢者の先進地、いわゆる高齢者対策の先進地であると、ある意味からすればですね、言えると思いますけれども、そうした場合に、国としても、入管管理を緩和して、東南アジアを中心としたところから連れてきて、日本語を勉強させて、資格を取ってもらって人材を確保するという方法があるということで、高校でそういう特色ある日本語教育をしているところが全国にあるということはこの前うかがってですね、やっぱりそういうところもあるんだなあという思いがしたもんですから。東南アジアに近いと言えば近いんですけど、阿久根でそういうのができないのかなあというのを思ってるんですけども、参考人の御意見としてはいかがですか。

槇之浦参考人

私は恐らく、手を上げろと言われれば大都市の近くにもっていかれるだろうなと思いますね、正直なところ。だから、地方にそれをもってくるというのは、かなり骨の折れるというか、かなり強引な方法を取らないと、もってこれないんじゃないか、あるいはより以上の理由が必要だろうというふうに考えますけれども。

濱崎國治委員

地方創生についても、人口に歯止めをかける、人口減少を抑制するという立場からすれば、やはり18歳未満の人口が少ない阿久根市にとってですね、これはどうしようもない現状だと思います。それからすれば、ちょっと金を持った高齢者の方を阿久根市に来てもらって、そういう方法もあるのではないかなということで、阿久根出身の方が施

山田勝委員長

いいですよ。

渡辺久治委員

あと約10年ぐらいすれば西回り自動車道が開通するんですけれども、その10年後を見据えて今から阿久根はどんなふうにしていけばいいか、北薩地域がどんなビジョンを持っていくかが大切なんだと思うんですけれども、嶋之浦参考人が何かそういうことを考えておられるようなことが、これをしたらいいんじゃないかというのがございますか。

嶋之浦参考人

まず第1に天草線でしょうね。おのずと今、連絡協議会が昔みたいに、にぎやかな感じでお祭りのようにやってはいませんね。しかも、その推進協議会の中の委員長は熊本県の議員のほうに委ねてありますね。委ねてある理由は、熊本のほうの高速はほぼ済んでしまってる、鹿児島県だけが残ってる。だからどうしても熊本県の委員長じゃないと、鹿児島県としては困る。熊本県の加勢をもらわない限りそれは進んでいかない。だから熊本、長崎両県の代議士さんたちが、主に上のほうを占めて、役席におられる理由は私はそういうことを鹿児島県は考えたと理解しています。そのほうが続いていくんだと、長く。推進運動としてはですね。だから出来上がった後もいろんな意味で、うちの折口にしてもそうですが、まだ確かに農産物は大事ですから、農産物の話もしてますけれども、果たして農振地域が、あの後ろまで必要なかどうか。だから、金丸知事時代に考えたあの構想というのは、当然鳥栖のインターを構想して考えられた発想ですから、その鳥栖のインターを皆さん方が見られたときに、阿久根市はその用意を済ましてるのかということを見ると、まだ農振のまま置いてある。埋め立てもできない。そこら辺は早く対処されてたほうが私はいいのではないかなと思います。いろんな交通網、流通機構のあそこまでは持ってきて、そこで小分けをするんだよと、小分けをして鹿児島一円、九州一円に走らせるんだよという一つの金丸構想というのはそこにあったわけですから、それからいくと、後の処理が遅れた分だけまた遅れてるというふうに僕は考えてますけれども。だからほんとに農業にふさわしいところは農業を一生懸命やらせればいいし、必要性のあるところは外してやったほうが、どんな企業が出てくるかわからないと私は思います。

渡辺久治委員

ありがとうございます。

山田勝委員長

ほかにないですか。私からお尋ねしていいですか。先ほどこの阿久根高校跡地に関する特別委員会はさっきもお話したんですけれども、このままでは阿久根市の財政がよくないということで、なんとかせないかんということでですね、そして特別委員会をつくったんですが、その前に例えば阿久根高校跡地をサッカーの練習場と宿泊地になんとか提供してくれないかという提案があったことと、それから社会福祉、今から先、介護職員が足りなくなるので、外国人の労働者を入れるその教育をする機関をつくれないか、そして、それに合わせた社会福祉施設をつくれないかという提案があったのを受けてですね、具体的に進んで話をさせていただいてるわけですよ。嶋之浦社長はですね、例えばそういう阿久根高校跡地を利用した介護職員の外国人の介護職員の育成、そしてまたそれに関する介護施設とか付加価値施設とかについては先ほどから非常に難しい、難しいという話をされましてね、自分としては阿久根のことを考えてくださいよという気持ちで実はお話ししてるんですけど。ただ非常にあの外国から来て、外国で仕事ができる人が日本で仕事をするために試験を受ければ絶対通らないんだという話がですね、私も何遍は聞くんですよ。そうなったときに例えば国のレベルの話ですけどもね、ちゃんとしたところであつたらその場は認めるとか、試験をする際にベトナムだったらべ

トナムの言葉で試験をする、タイならタイの、フィリピンならフィリピンの、そういうような、これは国が決めることですが、そういう方向は全然望み薄だと思われませんか。

槁之浦参考人

私は薄いと思いますね。そういう考え方は非常に素晴らしい考え方であって、私もできればあったほうがいい、自分の地元。だけれども、そういう考え方を持っているところは世間に多いと思うんですよ。そうした場合に、彼らが住みやすいところを提供してやらなければならない、まず1つは。交通の便からもいろんな面から考えてみた場合に。そうした場合には全寮制にするのかですね、そういう予算立てを県に向けてしてもらえるのかどうか、そういうのを一つ一つつぶしていかないと、なかなか短時間の間ではできてこないだろうと、私はある意味で政治には携わっていましたから、そこら辺の積み重ねというものが今まで希薄だっただけに、急にそれを申し上げてなかなか地方、うちの代議士がそこまで納得できるのかどうか、納得した上で進んでくれるのかどうか、というのはいかがなものかなというふうに考えますよね。いいことだと思つてます。

山田勝委員長

非常に難しいということですね、わかっていますよ。これは非常に難しいということにはわかっているんだけど、せっかく私も長い間、槁之浦さんを見ていますと、非常に政治的に解決された問題はたくさんありますからね、あなたの場合は、ほんとに感心しております。そういう中で、ほんなら一気はでけんどんからん、ちょっと頑張れば可能性はないことはないことはないなあという気持ちですね、お手伝いしてくださいよ、という気持ちなんですよ。

槁之浦参考人

それはできることは一生懸命やりますよ。不可能を可能にするのが一つの事業の形態ですからね。

山田勝委員長

ちょっと協議会に入ります。

(休憩 11:06～11:16)

山田勝委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。

ほかにないですか。社長ほかに何か御意見はないですか。休憩中にですね、御意見を賜りましたのをみんな覚えてますので出してくれると思います。

槁之浦参考人

そのトレーニングの方法というかいろんなものもありますでしょうけど、やはりこれだけスポーツがそういう形の中で繁栄、例えば形がつくられていけばですよ、今度のサッカーなんか鹿兒島県は昇格しましたよね。ああいうのも一つの契機ですから、やはりそういう練習場、あるいは脇本の砂浜なんかは生きてくると思うんですよ。腰を強くする、何を強くする、いろんな意味で。合宿所をどこにしようかとなった場合に、今のところ脇本の海岸も、秋から冬にかけてはサーフィンとかなんとかありますが、夏は日南に行きますよね。見てみると、いろんなところに小屋みたいなどころを利用して、彼らは住んだり泊まったりしてますよ。だからそういう設備等々もそろえていけば、恐らくもっと根づくんじゃないかというふうに思いますし、もう一つは神戸からこうして見ると、ヨットですよ。あのヨットをこっちに持ってこれないか。まあ言えばね。あれがほんとに金を持っている人の遊びですよ。だけど、そのヨットは預けなきゃいけない、自分たちは管理するということはできないから。その地域のところに預けてありますよね。

年間預かって幾らかと聞いたら300万から500万預かり賃があると言ってます。それも阿久根の今から先のいい方法だと思うんですよ。特に脇本の港なんか、昔からの避難港ですから、台風にもそんなに問題視されない。だから、高松川で荷は降ろしても船は脇本浜にあったはずですよ。河南さんのぼんたんの船でもですね。天然の避難港ですね。だから昔の絵を見てみると、必ず河南さんの船も脇本の浜にありますよ。高松川のところに停泊しているのは荷を降ろす時だけです。だからそんな素晴らしいものがいくつもあるんだから、どういうふうを活用するかをみんなと一緒に考えていくほうがもっといいんじゃないのかなと思いますけれども。私は私なりにできるところはやりますけれども。

山田勝委員長

ぜひいろいろお知恵をいただいたり、協力してください。ほんなら何か一言御意見はないですか。

槁之浦参考人

特産をつくってみたいですね。

山田勝委員長

たびたびまたよろしくお願いします。

それでは、ありがとうございました。

槁之浦参考人

粗末な意見で失礼しました。ありがとうございました。

山田勝委員長

それでは委員会を代表してお礼を申し上げます。本日はお忙しい中にもかかわらず、本委員会に御出席いただきましてありがとうございました。本日、お聞きいたしました意見は今後の審査に有効に活用させていただきますので、なにとぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

この際、暫時休憩いたします。

(休憩 11:21~11:30)

山田勝委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま槁之浦参考人からいろいろ御意見を聞いたり質疑したりしてですね、今までにない発想の御意見だったと思います。それで、収録していない分もありますので、休憩中の話もですね、非常に興味深いものもありましたのでどうかひとつ頭の中に入れ込んで今後皆さん方の御意見をまとめるときにはですね、それなりに御意見として申し述べていただきたいと思います。

次に、次回開催内容について協議を行いますが、白石委員が北九州の遠矢さん、濱崎委員が蓮の実園の野元さんにアポを取っていただいているんですけども、この二人の件についてはどうなっていますか。

白石純一委員

本人は喜んで、参考人として話をすることはできるということでした。スケジュールについてはこちらの都合に可能な限りは合わせますということでした。

山田勝委員長

スケジュールについて事務局に交渉していただくんですか。その旨。

白石純一委員

すればいいんですか、すみません、その過程が、やり方がわからなかったのです。

山田勝委員長

休憩いたします。

(休憩 11:33～11:34)

山田勝委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。白石さんもう一回おっしゃってください。

白石純一委員

本人の参考人としての参加の意向はございますので、あとは日程を詰めさせていただければということです。

山田勝委員長

日程については事務局で対応してください。濱崎委員の蓮の実園の野元さんについてはいかがですか。

濱崎國治委員

いろいろ話をしておりまして、もうちょっとお会いして、今までのことも含めて報告しながら本人がどういう話をされるか考えていただこうと思っておりますので、近日中には連絡を向こうから来るようになってますので。大丈夫です、積極的に発言されるような感じです。

山田勝委員長

日程については事務局が調整しなくていいんですか。

濱崎國治委員

そのあと調整をするということ。

山田勝委員長

わかりました。ならあの、野元さんについては濱崎委員がもう一遍よく話をしてから、日程調整については事務局にお願いするということでございます。

それでは、お二方の日程がはっきりし次第、次の委員会は開催したいと思いますので、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

それでは、御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で本日の旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査特別委員会を散会いたします。

(閉会 11時35分)

旧阿久根高校跡地活用検討に関する
調査特別委員会委員長

山田 勝